



創刊号

1996年 冬号

イグナチオ教会 と 愉快的な仲間たち

「もはや二人ではなく、一体 (One) である」 マタイ 19・6 より

- 創刊号の主なトピック
- 『One』創刊!
 - 創刊号大特集 生まれ変わる聖堂
 - 先輩たちの結婚式
 - お世話になったヘルパー紹介
 - 修了者からの便り
 - 教会からのお知らせ

結婚セミナー／クラスの 修了者に贈る情報誌

『One』創刊!

One は提案します。これからもずっと楽しい仲間でいよう!

忘れていませんか?

私たちの心の故郷 聖イグナチオ教会を

『One』は結婚セミナー／結婚クラスを修了し、聖イグナチオ教会で結婚された「仲間たち」に、楽しかった仲間たちを思い出して、また楽しい関係を築きたいという願いをかなえるために、修了者自身と神父様／ヘルパーによって企画されたみんなのためのお便りです。なつかしい神父様／ヘルパー／リーダーからの声をはじめ、建設中の新しい聖堂の

情報、修了者からのお便りなどもお伝えします。読者の皆さんのご意見によって内容は益々充実します。企画と編集は修了者や現在セミナー／クラス受講者が行っていますから是非ご期待ください。



なつかしい神父様たちも『One』に登場して私たちに語りかけてきます。(写真は1996年9月29日のヘルパー全体会に出席の神父様)



あなたたちの結婚の故郷である今のイグナチオ教会が解体される来年8月までに是非一度来てください。また、あなたたちの子供の結婚式のために建てられている新しい教会を見に来てください。待っています。

聖イグナチオ教会
主任司祭
ルイス・カンガス

皆さん
こんにちは、
粟本です



聖イグナチオ教会で結婚式を挙げられた皆様、如何お暮りですか。幸せな家庭を目指して日々努めていらっしゃるものと存じます。当教会が結婚講座を開設してから十数年経ちました。この度、何千組にも及んできた挙式者のための親睦・交流の一つとして『One』が有志の方々の協力により「結婚委員会」から発行されることになりました。今までもそれぞれのセミナー(信者でない方々のための結婚講座)やクラス(片方又は両方とも信者の方々のための結婚講座)では、年に何度かは自分達のセミナーやクラスで独自に親睦の集まりをなさっているとは思いますが、今回のように全セミナー・クラスを対象にした企画は初めてです。皆さんは結婚という同じスタートラインに並んで、それぞれの結婚生活に向かって二人三脚で走り出されたわけですが、出発した時から互いに異なる自分達の道を進んでいらっしゃるでしょう。山あり川あり岩場あり、暑い日寒い日、笑う時

あり泣く時あり、結婚生活とは正に人生そのものでしょう。しかし逆境においても順境においても常に「二人の生きる姿勢」が問われています。「自分のあり方」が問われ続けています。一生に一度の繰り返しのきかない「私の人生」です。あなた方はまだ出発したばかりです。大いなる希望と期待をもって「我が人生」に挑戦して行って下さい。必ずや手応え、歯応えを感じ取れる充実した人生が待っていてくれるでしょう。

聖イグナチオ教会 結婚委員会委員長
粟本 昭夫

なんで One っていう名前なの?

タイトルを決めるにあたって、編集局でも本当にたくさんの方が名前が上がりました。印象的な名前、そして聖イグナチオ教会にふさわしいものとして、この名称が選ばれたのです。聖書のマタイ19・6にある「もはや二人ではなく、一体である」というところから「1」を表わす『One』としました。どうです、なかなか素敵な名前でしょ!

One は年2回発行予定です

皆さんからの熱きラブコールを
お待ちしております



ご存知ですか？ 私たちが結婚した聖堂は今こんなに変わり始めています

現在進められている聖イグナチオ教会新聖堂の新築工事は、清水建設と竹中工務店の共同作業で行われています。現在の工事（一期工事）は1995年4月17日に着工され1997年7月31日に完了します。これによって主聖堂、小聖堂、クリプタ（納骨堂）、信徒会館が出来上がります。そして1997年8月に現主聖堂内の物（ステンドグラスは9

月）の引越しを行い、10月から11月に現主聖堂が解体されると、二期工事が着工される見込みです。二期工事によって中聖堂、鐘楼、教会専用地下駐車場が出来上がります。聖イグナチオ教会の新築工事が全て完了するのは、1998年12月の予定です。『One』創刊号が皆さんのお手元に届く頃、クリスマスにかけてイグナチオ教会の工事現場は

外の足場が最も高くなり、ようやく建物が上棟に近づきつつあること、工事現場のスケールの大きさなどが一番分かる時期だそうです。皆さん、今のうちに一度イグナチオ教会にお立ち寄りください。何とんでも「イグナチオ教会は私たちの教会」なのですから。



お馴染みの現聖堂正面ですが、新聖堂の工事のためにもうこの方向からは、見る事ができなくなりました。



新聖堂の工事状況は、道路を挟んだ「スクワール麹町」ビルから良く見えます。（写真は1996年10月18日現在）



この新聖堂の完成模型は現聖堂の入り口付近にあります。記念に写真を撮るのもGood!



特別に工事現場に入らせていただきました。楕円形の新聖堂の長径は46mもあります。



設計 坂倉建築研究所

新聖堂の完成予想イラスト。早く見たいと思わせる斬新なデザインは東京の新名所になるかも！

新聖堂の建設には こんな話がありました

信徒さんのための大きな住宅を作っている気持ちです

10月3日（木）、工事責任者である清水建設の橋本所長にお会いして、イグナチオ教会新聖堂工事に関するご苦労話の数々をお聞きました。

主聖堂の特徴は、何とんでも楕円形の床と劇場のような緩やかなスロープを描く信徒席や、それをとり囲む12本の柱（12使徒を表わす）、そして天井に架構される大胆・複雑なデザインの鉄骨でしょう。これが逆に大変な工事となる理由とか。その装飾として使われるいろいろな仕上げ材についても、レンガや石などをとても複雑に貼ったり積んだりされるそうです。「木材も熱帯材は使わずに作業をしています。本来は熱帯材であるラウ

ンなどの合板をコンクリートの型ワクに使うのですが、今使っているのは針葉樹です。フシなどが多くてそりゃ取扱いが難しいですよ」と橋本所長。意外なところにご苦労があるのですね。そのうえ現在の聖堂を使いながらの工事のため、騒音や教会に集まる方々に対しての配慮など、現場の方々は常に気配りされています。実は取材前日10月2日の遠藤周作さんの葬儀ミサ、告別式の時も2日続きの雨で遅れていたコンクリート打ちの作業を1時間程中断して欲しいとの依頼があり約40分間コンクリート打ちをやめたそうです。本来、この作業は中断するとコンクリートに段層ができてしまうのでできないことだとか。橋本所長が最後に言われた言葉にとっても感動しました。

「教会は信徒さん一人ひとりがみな自分の家だと思っている場所であり、設計上は全ての人に満足してもらえるようにすることはとても難しいけれど、皆さんがお住いになる大きな住宅を作っているんだという気持ちです」

設計と工事、互いに神経を使うこれらの作業も、自分たちの全てをかけているんだというスタッフの熱意で吹き飛ばしている。そんな印象を受けました。お話をお聞きして、今までの聖堂をいつまでも残したいと残念に思っていた気持ちが、早く新しい聖堂を見たいという気持ちに変わっていました。



取材でお世話になった清水建設の橋本所長さん

● ne は提案します。

変りつつある聖堂は私たちの心の故郷だ。
今度の休日は久し振りに四ツ谷に行ってみよう！

先輩たちの結婚式

— 小竹 正一・美知子ご夫妻 —

【 1950年 挙式 】



今回は創刊号として聖堂が完成したときに結婚式を挙げられた先輩のお話から1950年にみんなでタイムスリップ！

小竹正一さん・美知子さんご夫妻は今年の5月で結婚生活46年目を迎えられました。現在の聖堂が完成してわずか1年過ぎの結婚式などにまつわる当時のお話を、白い髷と帽子がとてもお似合いのダンディな旦那様にお伺いしました。

完成して1年目の聖堂は そりゃ綺麗でしたよ

家内と私は同い年で、今年で70歳になります。家内の方が私より25日ばかりお姉さんですが(笑)。結婚式のことはよく覚えています。1950年5月3日の午前9時からの式でした。当日はあいにくの雨で参列者の集合写真は、聖堂の正面入口の前ではなく、入口に向かって右側にある、今のザビエル小聖堂の中で撮ったのです。当時そこは結婚式などの際の準備室でした。聖堂が完成して1年ぐらしか経っていませんでしたから、中も外も、そりゃ綺麗でしたよ。外壁もまだ白くて。

家内と私は現在二人とも信者なので“家内は幼児洗礼を受け、私は結婚する前年23歳の時に洗礼を受けました”結婚式とミサの両方を行う、いわゆる結婚ミサを挙げました。教会のある麹町(現在の東京都千代田区・四ッ谷駅周辺)は戦災を受ける前は、下町のような親しみやすい雰囲気がありました。

小竹さんご夫妻が出会ったのは、隣に住んでいたという縁からだそうです。正一さんのお父様は仕事の関係から、ご家族と共に上智大学内の舎宅に住んでいました。そのお隣にいらしたのが奥様・美知子さんのお姉さん夫婦でした。

「結婚は信仰と価値観の一致した人と」と思って...

私の家族は神父様と身近なところで暮らしミサにも参加していたのですが、実は当時誰も〈父でさえも〉洗礼を受けていなかったのです。洗礼を受けるように強制はされませんでした。自分から神父様の部屋に通い、彼女との結婚の話が進むと、夫婦は同じ信仰と価値観を持つことが大切だということを二人でつくづく感じました。戦争が終わった後、家内は東京にいる彼女の姉の招きで上京して、姉夫婦と共に暮らすことになりました。家内は姉の子育てなどの手伝いをしていましたが、隣同士だっ



和服にベールの美知子さん。今見るととても斬新！(もしかして流行るかも?)



現在の小竹さんご夫妻
笑顔がとても素敵です

たから、私は彼女の働く姿をしょっちゅう見かけました。そのうち話をするようになり、少しずつ仲良くなったのです。家内の姉夫婦はとにかく映画が好きで、毎週月曜日の夜に観に行っていました。その間家内が留守番をして幼い甥や姪の



1950年5月3日は雨のため、当時の結婚準備室(現在のザビエル小聖堂)で記念撮影。皆さんが座っている場所は今、祭壇となっています。

面倒をみていました。姉夫婦は私に、留守番中家内の話し相手になって欲しいと言ってくれました。ところが家内の甥や姪のために、当時流行った幻燈屋ごっこを毎度やることになってしまい、家内と話せるようになるのは、子供たちが寝静まってからでした。でもいつもその時間になると姉夫婦が帰って来てしまいました(笑)。結婚することになって、家内も私も大変嬉しく思いました。しかし同時に「こんな自分で本当にいいのか」と家内は悩んだようですが、実は私も同じように悩みました。

出会いの大切さを感じています

番町小学校の一年生の時から、私は日記をつけてまいりました。最近では“自分史”をワープロで打っていますが、これを書いてつくづく思うのは“出会い”の大切さです。自分の人生の中で数限りなくあった出会いのうち、“夫婦の出会い”こそが最高のものだ、と今しみじみ感じています。

インタビューを終えて、小竹さんのような魅力ある方とお会いできて、とても良かったと感じました。小竹さんどうもありがとうございました。



シリーズ

お世話になったヘルパー紹介

山形 昭・伸子 ご夫妻 (69歳/66歳)

私どもは1984年2月からお手伝いさせて頂いておられます。この10年の間に色々な体験をさせて頂きました。セミナーの始めの頃、余り気乗りしないように見えたカップル達が、話し合いを通して少しずつ成長し、「好きなだけでなく相手の良い所も悪い所も全て受け入れ、相手の立

場に立って喜んでゆるすことができるようになりました」といったような分かち合いを伺えた時、こんなに嬉しいことはありませんでした。セミナーも終わりに近づく頃、目を輝かせたカップルが「自分達の結婚について、結婚前にこんなに深く話し合う機会を与えて下さった教会に感謝で一杯です」

と多くの方が申されます。私どもも結婚して42年になりますが、若い方々と共に歩むことによって自分たちの生活もより豊かなものになりました。私どもを支えて下さった愛の源である神と、このセミナーを陰で支えて下さっている方々に、心より感謝しております。

セミナー/クラス 修了者からの便り

シリーズ

1996年2月セミナー修了
— 宇井 修・知子 ご夫妻 —

間もなくの二世誕生が待ち遠しくて...

今回は、まもなく新しいメンバーを家族に迎えるご予約の宇井さんご夫妻にインタビューさせていただきました。宇井さんご夫妻は結婚セミナーについて、こんなことを語っていただきました。

「セミナーで、同時期に結婚するカップルと出会えたことは本当に楽しく、またこれまで結婚する相手が、どんなことをどんなふう考えているのか漠然としか知らなかったのが、この機会にお互いの意志を皆の前で発表することで、お互いの考えが明らかになって、とても印象に残りました」と宇井さん。二人だとなかなか話せない話題でも、結婚前にこうして改めて話し合う機会を持つことで、お互いの

意外な面を知り得て、更なる理解につながっていったようです。そして、結婚後は「セミナーで話し合ったことはずっと頭の片隅にあって、相手と真剣に重要な事柄について話し合うという下地ができたのが、結婚生活に役立っています」ということでした。お二人はセミナー終了後、同じクラスの仲間たちと何度か会合を開いている様子。「結婚」という人生の節目ともいえるその大切な時期に、同じ目的を持つ者同士が出会い、同じ時間を共有できたことは、お二人の共通の財産だといえまう。そして、時を同じくした仲間たちとの絆は、今後の結婚生活においても大変重要な意味を持つてくるのではないのでしょうか。最後にご夫妻から一言。「あと数日で



赤ちゃん誕生前にマタニティ姿を記念にパチリ。この後お二人で、いや厳密には三人で公園へとおでかけの宇井さんご夫妻（1996年9月16日）

赤ちゃんが誕生する予定で、二人で楽しみに待っているところです！」・インタビューさせていただいたのが10月の初めですから、この創刊号がでる頃には、きっと可愛い赤ちゃんが生まれていることでしょう！

教会からのお知らせ

思い出の聖堂が写真集になっているのをご存知ですか？

聖イグナチオ教会写真集『大きな木の舟』の在庫があとわずか。お早めにお求めを！

値段 3,500円
郵送も可（郵送料 350円）
（箱代 50円）
合計 3,900円



教会の売店でも販売しています。手にとって見てね！

時代は変わっても、聖イグナチオ教会における結婚セミナー・クラスの受講を終え、結婚式を挙げたという共通の体験を持つ皆様がこの『One』の発刊によって一層その絆を強められ、地域と年代を超えてコミュニケーションの輪が広がることは、大変すばらしいことと思います。さらに、この『One』が結婚の誓いや講座のことなど折々に思い起こさせるよすがともなって、各家庭を明るく照らす愛の燈台ともなればと願っております。

聖イグナチオ教会 結婚委員会議長
黒川 恒雄

見逃さないでね イグナチオ教会の 素敵なイベント



【12月】

- 23日 降誕祭「子どもと家庭のミサ」
14:00 -
- 24日 降誕前夜ミサ
17:00 <キャンドル・サービス>
18:00, 19:00, 20:00, 21:00, 22:00,
23:00, 24:00 (英語)
- 25日 クリスマス・ミサ
6:00, 7:00, 8:00, 9:30, 10:45,
12:00 (英語), 13:15 (スペイン語), 18:00
- 31日 一年感謝のミサ
18:00

【1月】

- 1日 ニューイヤー・ミサ
0:00, 6:00, 7:00, 8:00, 9:30, 10:45,
12:00 (英語), 13:15 (スペイン語), 18:00

1月1日 午前零時のミサ終了後（1時頃）から朝6時のミサまでの間、聖堂は一晚中開いています。あなたも一度行ってみない？



このコーナーを担当する内田さん



来年はボクの年です

編集後記

主な編集参加者氏名

北見 義弘/弘美
福富 達夫
藤枝 雅幸/香織
養口 達伸
児玉 舞
林 彰

私たち編集局は聖イグナチオ教会に縁のある素人が集まったボランティア集団です。

結婚セミナー・クラスの修了者/受講中の方々、ヘルパー、神父様によって企画から編集までを行いました。取材を分担し、作成された記事はインターネットを使って担当者宛てに送り、編集作業はすべて自宅のパソコン上で行うなどの先進的な方法で行われました。全員仕事で忙しいところ本当に頑張りました。今年流行の言葉でいえば、「自分たちで自分たちを誉めたいと思います」というところでしょうか。取材に応じてくださった皆さんもありがとうございました。

編集局一同

皆さん必ず見てね！

困っています！ 挙式後に住所変更のある方、または変更された方をご存知の方は、教会事務所の内田宛てお知らせください。なお、連絡の際には挙式年月日もお忘れなく。

お寄せください！

- ・仲間に教えたい素敵な話
- ・こんなことで悩んでいますなどのご相談
- ・編集局へのご要望/励ましのお手紙
- ・一緒に編集/取材に参加していただける方

発行 聖イグナチオ教会 結婚委員会

ご意見・記事投稿は下記にお寄せください。
102 東京都千代田区麹町6-5
聖イグナチオ教会 One 編集局
Tel : 03-3263-4584
FAX : 03-3263-4585
発行責任者 平野 勝美・鈴木 庸子